

# 誰もが自然とふれあえる空間を作ろう

## 岩見沢農業高校月形演習林校内見本林の活用

北海道岩見沢農業高等学校 森林立地環境班

### 研究の背景・目的

一昨年度、演習林の要所に案内看板を地面に設置しました。昨年度にその評価を実施したところ、看板の位置が低く、草やササに隠れてしまうという問題が残りました。そこで看板の位置を高くするために、いくつかの方法で看板の取り付け位置を改善することができました。

しかし、進捗状況は思わしくなく、残りの看板を効率よく付け直す必要がある、という課題が残りました。また、見本林整備は、歩道のチップ敷き換えと、歩道脇の丸太装飾といった整備が予定区画の二分の一程度にとどまり、新たに発案したベンチの設置が行えませんでした。

多くの人が自然とかかわるきっかけづくりのために、それらの課題を解決したいと考えました。

### 研究の内容・成果

#### 月形演習林の活動

演習林の全体像を把握するための踏査では、昨年取り付けした看板の状態を把握し、異常や改善点を探っていきます。そして、秋までに林道の状況がわかる案内看板を作成し、設置する予定としました。

看板を設置する際に月形の豪雪対策としてバネを1本に対し、針金を2本使っていました。これを1本にすることで、作業の効率化を図れると考えました。針金を一本にし、耐久性の不安を減らすため、取り付け位置をなるべく高い所や雪の影響が少ない枝の下を選ぶようにしました。

また、踏査の際班員から「今どこにいるのか?」という疑問が生じました。そこで現在地を把握できるよう、月形演習林全体図に現在地を書いた現在地看板を設置しました。



さらに、毎春3年生が植樹実習を行った「足跡」を残したいと考えました。そこで植樹エリアに植樹年月、樹種という最小限の表示看板を設置することにしました。この看板を設置することにより、明確な根拠を持って、管理や調査ができることが見込めます。

林道の整備については、なるべく範囲の改善ができるよう、積極的に刈り払い機を使用しました。



#### 校内見本林の活動

目標は自然とふれあうことができ、休憩することができる空間にすることが目標です。まず、雪が融けてから、実際に見本林へ行き、林内の状況を確認しました。毎春、落ち葉などに覆われており、見本林に入りにくい状況になるため見本林に入りやすいように落ち葉や枝を拾いました。歩道の境界として使っていた杭を抜いてみると、その多くは腐朽が進んだ状態でした。昨年度、すべて打ち込んだ杭を並べる方式から、丸太と杭をセットにした方式に変更したばかりでしたが、昨年度実施した丸太は表面に不朽がない状態だったことから、その方式を引き継ぎ、これを、校舎側の入口まで約8m、両側に丸太を並べるので16m分の作業となります。同時に木材チップの入れ替えと補充を行いました。丸太の設置は、腐朽を抑えるため、地面に埋めずにチップの上に浮かせるよう設置しました。



しかし、何も固定をせずに設置したため少しの力で丸太が動いてしまい、道の境界形状が維持できないという問題が生じました。これに対して杭に針金を固定して、丸太の端につなげて固定することで転がらないように工夫しました。これらの整備が終わり、ベンチの設置に向けて準備を始めました。ベンチ形状は、積雪



期は移動収納できることを考え、軽くしたいと考え、角材を組んで作るシンプルなものにしました。高さは室内でシミュレーションを重ね、座りやすくするとともに立ち上がりやすいように全体の高さを通常より高い65cm脚の太さは12cm角と太くしました。

#### 今後の展開

月形演習林に設置した案内看板や現在地看板と校内にある見本林に設置した樹木看板の針金を今年度から2本から1本にし、強度の検証ができなかったため、今後は強度の確認をしながら改善点などを見つけていく。月形演習林で宿舎周りや周回林道付近にも現在地看板を設置する。校内にある見本林をたくさんの方ができるようにベンチの複製や見本林に入ったら楽しめるような掲示の工夫をするとさらに利用してもらいやすくなると思っています。